

その他の映画・演劇業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	7	19 ～ 20	舞台稽古中、一幕から2幕への舞台転換のため、幅18m、奥行15mのステージが奥に3m移動したときに、舞台下手袖口でフライング技術者の通訳をしていた者が誤って15, 7m下の奈落に墜落した。	414	1	1～ 9
1999	10	14 ～ 15	水族館から依頼されたハイビジョン展示ソフトの海中撮影中に、潮に流され水死した。	911	10	100 ～ 299
1999	11	22 ～ 23	出張から会社に帰るため乗用車(2名乗車)で自動車道を走行中、みぞれで路面がシャーベット状態だったためにスリップして道路左側に接触、さらに中央分離帯に衝突して、車外に放り出された。	231	17	10 ～ 29
2001	2	18 ～ 19	ワゴン車に同乗して走行中、片側二車線の走行車線から追い越し車線に入ろうとしたときに、前方を走行していたワゴン車がこれをさけようとしてバランスを崩して左側ガードレールに衝突し、反動で走行車線に戻ったところへ追突し、後部座席から車外に投げ出された。	231	17	10 ～ 29
2003	5	0 ～ 1	テレビ番組の撮影で、ワゴン車の左横のスライドドアを開けて2列目のシートに座って斜め後方を並走するバイクを撮影しているときに、走行中のワゴン車から転落した。	231	1	300 ～ 499
2003	5	6 ～ 7	出張する上司を駅に乗用車で送った帰りに、車線変更をする際にハンドル操作を誤ってセンターラインを越えて対向の大型バスと衝突した。	231	17	50 ～ 99

2004	6	12 ～ 13	4tトラックおよび8人乗り普通乗用車に分乗し高速自動車道を走行していたところ、前方に停車している大型トラックを確認、追い越し車線に車線変更したが、道路中央車線上に落下物（幅3m、奥行き2m、高さ60cm）があったため、急ブレーキを掛けたが、間に合わず、当該落下物に衝突した後、その先に停車していた大型トラックに衝突した。	221	17	1～ 9
2006	5	21 ～ 22	劇場の2階の通路（高さ6.3メートル、有効幅0.92メートル）にて、照明の調整作業中、1階観客席に墜落した。	417	1	1～ 9
2006	8	15 ～ 16	ステージセットの解体作業中、当該ステージ上、高さ約13メートルの位置にある作業床開口部から墜落した。	419	1	1～ 9
2010	2	13 ～ 14	事業場に保管していた火薬類の取り扱い作業中に爆発及び火災が発生した。事業場1階で当該作業を行っていた作業従事者2名が火傷等の負傷（重傷2名）、事業場2階で事務作業を行っていた2名のうち1名が避難後に咽喉の炎症等による軽傷で、合計3名が病院で治療。重傷者2名のうち、1名が18日後に死亡。	511	14	1～ 9
2011	1	14 ～ 15	幼稚園での公演が終了し、軽自動車を運転して、事業場に戻っていたところ、国道上にて、対向車線にはみ出し、対向車線を走行していたトレーラの側面に激突したものの。病院へ搬送されたが、8日後の1月28日、脳挫傷等により死亡した。	231	17	10 ～ 29
2014	3	12 ～ 13	被災者は、照明等を吊るために設置する支柱を組立て作業中、支柱の8段目（高さ約15m）で移動しようと、支柱に架け渡してあった足場板に足をのせたところ、足場板が滑動し、墜落した。	391	1	30 ～ 49
2015	1	1 ～ 2	多目的イベントホールで開催されたコンサートの舞台装置撤去作業中に、可動式客席が格納されるピット内（深さ約2.5m）で倒れている被災者が発見された。（現認者なし）発見時ピットの囲いとして設けられている移動式の間仕切り壁が一部開放していた。被災者は病院に搬送され、外傷性脳出血、血胸、肋骨骨折と診断され療養していたが、平成27年1月1	418	1	1～ 9

			6日死亡した。			
2018	6	10 ～ 11	5階建物の屋外階段の踊り場手すりに立ち（高さ約14m）、隣接する駐車場に設けたエアマット（厚さ2.5m）を目指して飛び降り時のアクション訓練を行っていたところ、8回目の飛び降り後からイビキをかき始め意識不明となり、後日死亡した。	418	3	10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。